

アメリカ合衆国において貧困問題に取り組む民間非営利団体の活動について

藤本 修平

アメリカ合衆国は小さな政府を志向し、公的制度による社会保障は市場の役割を重視して設計され、その役割は限定的とされている。そのため、民間非営利団体によるボランティア活動が大きな役割を果たしているとされる。そこで、今回のカンザスシティ市滞在中に、実際に貧困問題に取り組む団体に対しインタビュー調査を実施した。

1. 教会（Blue Springs Christian Church）でのインタビュー

教会に訪問し、牧師に対してインタビューを実施した。日曜日に訪問したこともあり、大勢の方が教会を訪ね、活気のある様子であった。教会の1階ロビー内には寄付コーナーが設けられており、学生向けのノート・バックパック・電卓等が並べられていた。教会自身で物品の配布先の優先順位をつけることが難しいため、地域の貧困問題に取り組むボランティア団体に物品を渡しているとのこと。また、生活困窮者から相談があった際には、ボランティア団体を紹介することもあるとのこと。



教会の外観



教会内に置かれた学用品

2. ボランティアグループへのインタビュー

貧困対策に取り組む二つの民間非営利団体へのインタビューを実施した。

(1) Community Services League でのインタビュー

Community Services League はジャクソン郡東部で食料配布等の活動を行っている。施設内には缶詰、パン等の多くの食料が保管させているほか、歯磨き粉等の日用品も保管されていた。食料配布については、農務省が実施する補助的栄養支援プログラム（SNAP）のみでは十分でないクライアントがおり、SNAP 利用者に向けても配布を行っているとのこと。中には、Community Services League で食料を受け取ったのち、別の団体で食料を受け取る方もいるとのこと。また、食料については、寄付で確保しているとのこと。

また、クライアントが自立できるよう、職業訓練制度の紹介等も行っているとのこと。仕事を探しているが、面接を受けるための服がないという方に向けて服の配布も行っているとのこと。

団体スタッフの構成については、フルタイムワーカーの Site Manager を除いてはボランティアで運営しているとのことであった。



食料の保管庫



衣服等の保管庫

(2) Lee's Summit Social Service でのインタビュー

Lee's Summit Social Service では貧困層に対して食料や衣料品の配布等を行っている。住居のあるクライアントは月1回、ホームレスのクライアントは週に3回食料支援を受けることが可能とのこと。補助金を受けると用途に規制が発生するため、寄付金のみで運営しているとのこと。施設の玄関前には寄付受付用のボックスが置かれており、誰でも食料を寄付できるようになっていた。ソーシャルメディアの活用やファーマーズマーケット等のイベントへの参加を通して団体の周知を図ることで、寄付の呼びかけ等を行っているとのこと。また、近隣のスーパーマーケットやレストラン等とも信頼関係を構築することで、食料の寄付を受けているとのこと。施設内には寄付で受け付けた服等の販売も行っているがあり、団体自身でも積極的に運営費用を確保しようとする姿勢が見受けられた。フルタイムワーカー9人のほか多数のボランティアスタッフがおり、福利厚生充実やワークライフバランスを推奨する働き方により、スタッフは継続的に働くことができているとのこと。



玄関前にある寄付用のボックス



衣服等の販売エリア

3. 所感

今回、インタビューを実施した団体は地域住民・企業等の寄付を積極的に受け付けており、アメリカ合衆国において寄付の文化が根強いものであることを学ぶことができた。また、教会等の日常的に足を運ぶ場所に寄付を呼び掛けるエリアがあることから、地域住民にとって寄付がより身近な文化になっているものと推察できた。また、インタビューにご協力いただいた方のいずれも社会問題に関心を持ち、自身で地域を良くしていきたいという思いを強く持たれていた点が印象に残った。

今回の調査を行うにあたり、インタビュー先との調整を行っていただいたホストファミリー、快くインタビューを受けてくださった Blue Springs Christian Church、Community Services League、Lee's Summit Social Service の皆様に深く感謝を申し上げます。